



第23回日本・スペイン・シンポジウム 共同座長による最終報告書

1 シンポジウム

2023年11月28日から30日まで、スペインのサラマンカ市で第23回日本・スペイン・シンポジウムが開催された。スペイン側はルイス・マヌエル・クエスタ外務・EU・協力次官が出席。日本側は、深澤陽一外務大臣政務官が出席した。

シンポジウムは、11月29日にサラマンカ大学付属の国際スペインセンターで行われた。「地政学、安全保障、協力：スペインと日本の絆を深める」というテーマのもと、両国の専門家が集い、二国間の戦略的な課題について議論した。セッションの開始前には、2010年から2022年まで同シンポジウムのスペイン側共同座長を務め、今年4月に逝去したジョゼップ・ピケ氏を偲ぶ式が行われた。

各セッションのタイトルは以下のとおり：

- スペイン、日本、そして世界の新たなパワーバランス
- 安全保障・防衛協力：グローバルな脅威への対応
- 相互知識の強化：大学の役割
- 新技術の活用による社会課題の解決に向けて

各セッションでは、二国間関係の強化につながる自由で活発な議論が行われた。これらの議論の中で出されたアイデアが、双方にとっての具体的な成果につながることを期待している。

2 日本とスペインの関係

日本・スペイン・シンポジウムにおける議論の主な結論は以下のとおり：

【スペイン、日本、そして世界の新たなパワーバランス】

このセッションでは、ロシアによるウクライナ侵略や、最近の中東における緊張の激化など、現在の地政学的な状況を踏まえた議論が行われた。議論の中では、安全保障問題は、経済安全保障や気候変動などの問題にも注意を払いながら、総合的に分析されなければならないことが強調された。また、インド太平洋の政治状況についても議論が行われ、中国を含む全ての国の間の協力を強



化する必要性が強調された。また、いわゆる「グローバル・サウス」に対する影響力を高めるために、ヨーロッパ中心主義から脱却する必要があることについても議論された。

【安全保障・防衛協力：グローバルな脅威への対応】

このセッションでは、スペインと日本の安全保障・防衛協力について議論した。主な結論は、アジアとヨーロッパそれぞれの安全保障を取り巻く環境は相互にリンクしており、双方の防衛当局は双方の地域の安全保障に関与しなければならないという点であった。またそのためには、法整備などの両国間の協力の制度化を推進していくことが重要であるという指摘もあげられた。さらに、スペインが先駆的な地位を占めている宇宙の安全保障分野における有意義な協力関係を発展させる必要性も強調された。防衛産業の発展においてビジネス上の結びつきを確立することにより、経済関係の一層の深化と持続性を促すことができることから、同産業における企業間の協力の重要性がますます高まっていることも強調された。

【相互知識の強化：大学の役割】

第3セッションでは、大学と研究分野の交流に焦点が当てられた。各登壇者は、社会的なニーズを解決するための製品やサービスを生み出すためには、大学の伝統的な機能を官民の協力によって補完する必要があることに触れた。その観点から、官民の合同組織を作ることが提唱された。また、国際協力の重要性や、文化や言語の違いを克服するための施策を実施することも強調された。そして、国際交流なくしては大学を取り巻く環境の進展はあり得ないという結論が出された。

【新技術の活用による社会課題の解決に向けて】

シンポジウムの最後のセッションでは、人工智能に重点を置き、社会的課題に対処するための新技術の活用について議論した。中でも、人工智能関連技術のガバナンスシステム、これらの技術が直面する主な課題、人工智能を活用できる主な分野などについて話し合われた。また、官民連携についても議論し、企業が人工智能の潜在能力を最大限に発揮するためには安定した規制の枠組みが必要であるとの結論が示された。また、今回のセッションを通じて、日本及びスペインの起業家の交流が両国のスタートアップ企業の促進に有益であることが確認された。



3 結語

シンポジウムでは、ディスカッションやイベントの枠内での対話などを通じて、幅広いテーマについて意見交換が行われ、スペインと日本の二国間のアジェンダの深化に貢献した。

また両座長は、シンポジウム開催に尽力した両外務省、そしてサラマンカの関係機関に感謝の意を表した。

2023年12月12日

日本側座長
佐藤義雄

スペイン側座長
アンヘレス・デルガド